

## 今週のメニュー

## ■トピックス

- ◇キャリア教育用教材「おしごと年鑑2020」に協賛  
～食品サンプルは、何でできているの？～

## ■随想

- ◇ららら、プラスチック (1) 1枚の写真

前日本プラスチック工業連盟専務理事 岸村 小太郎

## ■トピックス

- ◇キャリア教育用教材「おしごと年鑑2020」に協賛  
～食品サンプルは、何でできているの？～

塩ビ工業・環境協会（VEC）は、児童・生徒向けに企業や団体の仕事を分かりやすく解説したキャリア教育用教材「[おしごと年鑑2020](#)」（朝日新聞社2020年7月20日発行）に協賛しました。身近な暮らしの中で幅広く使用されている塩ビ製品について紹介しています。「おしごと年鑑2020」は全国の小中学校（約3万校）、教職員や教育委員会などに寄贈されています。

[キャリア教育](#)<sup>\*</sup>では、子どもたちが社会生活の中で自らの役割、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自ら社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度、意欲を形成・向上することを目指しています。「おしごと年鑑」は、小中学校の児童・生徒に向け、例えば身近な人の仕事を調べたり、社会について調べたりすることに役立つ学習用の教材として広く活用されています。「おしごと年鑑」は、2016年に発行が始まり、今回で5年目になります。VECは、本書の趣旨に賛同し、今年初めて協賛しました。

「おしごと年鑑2020」では、協賛企業・団体135社が140テーマを次の5つのカテゴリーに分けて紹介しています。「身近な生活につながるお仕事」「食べたり飲んだりに関わるお仕事」「社会の土台を支えるお仕事」「未来を生み出す科学技術のお仕事」「[知る][学ぶ][楽しむ]をかなえるお仕事」のカテゴリーです。



朝日新聞社  
「おしごと年鑑2020」より

この中で、VEC／ポリ塩化ビニルについては「未来を生み出す科学技術のお仕事」のカテゴリーにおいて、『[食品サンプルは、何でできているの？](#)』というタイトルで掲載されています（204、205ページ）。そして、その設問の回答である「ポリ塩化ビニル（塩ビ）」について、加工しやすく丈夫で長持ちすることなどの素材の特性や、その特性を活かし暮らしの中でよく見かける建築材料、自動車部品、医療機器及び生活用品などの様々な用途

例、さらには塩ビ製品のリサイクルの事例などを紹介して、塩ビが身近で便利な素材として幅広く使われていることを解説しています。



[VEC／ポリ塩化ビニルのページ](#)

「おしごと年鑑 2020」はキャリア教育授業でどのように活用されるのでしょうか？その使い方の一つの例を紹介します。VECのページでは「モノは何からできているの？」というテーマで、子どもたちがポリ塩化ビニルの性質や用途を通して、省資源と環境問題対策について考えてみられるように設定しています。

授業の流れについて概略を次に示します。「おしごと年鑑 2020」204 ページを開いて「食品サンプルは何でできていますか？」と質問し、答えはポリ塩化ビニル（塩ビ）。次に「塩ビは何と何でできていますか？」と質問し、答えは「塩（塩素）と石油（エチレン）」。

次に「石油があまり使われていないと、どんないいことがありますか？（204 ページから探す）」と質問し、答えは「省資源」。次に「塩ビについて、他にも良いことを探してみてください」と質問し、答えは「丈夫で長持ち、リサイクルしやすいことなど」。さらに、「プラスチックのリサイクルについて探してみてください」と質問し、「高速道路などで使用された塩ビ製の横断幕からショッピングバッグの製作」が一つの回答になります。

また、本書巻末 334 ページでは、「人類の未来を変える」～SDGs ってなに？～のコーナーにおいて、VECは「[高再生率で環境に優しい塩ビ素材~20年前から続くリサイクルシステム](#)」について紹介しています。

子どもたちが将来活躍したいと思うお仕事を調べるのに少しでもお役に立てれば幸いです。

※「キャリア教育」とは、子ども・若者がキャリアを形成していくために必要な能力や態度の育成を目標とする教育的働きかけである。そして、キャリアの形成にとって重要なのは、自らの力で生き方を選択していくことができるよう必要な能力や態度を身に付けることにある。したがって、キャリア教育は、子ども・若者一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育てることを目指すものである。自分が自分として生きるために、「学

び続けたい」「働きたい」と強く願い、それを実現させていく姿がキャリア教育の目指す子ども・若者の姿なのである。(文部科学省資料参照)

## ■ 随想

### ◇ららら、プラスチック (1) 1枚の写真

前日本プラスチック工業連盟専務理事 岸村 小太郎

7年間務めてきた日本プラスチック工業連盟(プラ工連)を、5月末に退職した。これを機会に、この随想のコーナーを担当することになった。プラスチックや、趣味の合唱や歌にまつわる話などを交えながら、今までの思い出や感じたことを書き進めてみようと思う。堅苦しい話はないので、仕事で疲れた時にでも、笑い話として読んで頂ければ幸いだ。タイトルの「ららら、プラスチック」は、そう、NHKの音楽番組「ららら♪クラシック」をもじっている。

退職後もプラスチックに関わる問題にライフワークとして取り組む積りでいたが、かつて在籍していた化学会社から声がかかり、6月からこの会社でアドバイザーを務めている。このご時世、テレワークが中心のため、出社しない日は、毎朝家内と1時間ほどのウォーキングを始めることにした。以前も、休日の朝に犬を連れて夫婦で散歩するのを習慣にしていたが、5年前に犬が亡くなってからは途切れていた。犬が亡くなった直後は、二人だけで散歩してみたのだが、犬がいないと何とも様にならず一老夫婦が徘徊しているような一、すぐにやめてしまった。今回は、「コロナ後」にもこの習慣を続けられれば良いのだが。

ところで、街を歩いていると、毎朝、どこかに使用済みのマスクが落ちている。「ああ、またプラスチックが捨てられている。これが海洋ごみになるかも知れないのに・・・」。新型コロナウイルス感染が問題化し、マスクが品薄になった時には、ドラッグストアやスーパーマーケットの棚からティッシュペーパーやトイレットペーパーが消えた。消費者の多くが、不織布マスクの原料を紙と誤解しているのだ。あのマスクがプラスチック製と分かれば、道に捨てる人は減るのだろうか？ 私は、レジ袋を常に鞆に入れておき、プラスチックごみが道に落ちていると、レジ袋を手袋のようにしてごみをつかみ取り、そのまま包んで家に持ち帰っていた(時々なので、偉そうには言えないのだが)。これをレジ袋の活用方法として周囲にも勧めたりもしているが、さすがに他人のマスクは拾いたくない。しかし、7月1日からはレジ袋も有料となり、これもやりづらくなった。まあ、これからは少なくとも道に落ちているレジ袋は減るのかな。

5月のいわゆるステイホーム週間には、まだ断捨離というわけではないが永年そのままにしていた資料や楽譜、写真等の整理をした。そして、古い写真の中から、1枚の写真を見つけた。私の幼稚園での、思い出深いあの写真だ。

卒園式の朝、集合写真を撮るために、卒園する全員が、リボンで結ばれた筒状の「お免状」(卒園証)を持って整列させられた。私はこれを野球のバットのように斜めに立てて持っていたところ、先生からは胸の前で捧げ持つようにとの指示があった。一旦は指示通りのポーズを取ったのだが、「こんな子供っぽい格好なんかできるか」と、撮影の直前に元のポーズに戻っていた。今のようにデジカメでの撮影であれば、その場で画像を確認し、即



撮り直しとなるところだが、時は昭和 30 年代。写真屋のおじさんが、写真機（カメラとは言わなかった）に被せた暗幕に頭を突っ込み、「ハトが出ますよお、一、二、三!」、ボン！（閃光器のマグネシウムが発火する音）の時代だ。数日後に出来上がって来た写真を見て、幼稚園ではちょっとした騒ぎだったそうだ。決して集団行動ができない子供ではないのだが（と、本人は思っている）、みんなと同じことをするのが、どうもつまらない。これは、大きくなっても変わらなかったようだ。

大きくなっても変わらないと言えば、歌が好きなのもそうだ。物心がついた頃から歌が好きだったが、幼稚園でのある日、廊下でひとり歌っていると、通りがかった園長先生から、「岸村くんは、歌がじょうずですね」とほめられた！ あの時の嬉しさが、今につながっている。



写真. 卒園式の写真（左端が園長先生）

一人だけ、卒園証書の持ち方の違う子がいます。分かりますか？

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783